

言語技術の効果的な活用・言語活動の充実を図った
国語科授業実践例

府中市立府中中学校

- 1 学年・単元名 第1学年 事実を語る「未来をひらく微生物」
- 2 本時のねらい グループで段落を並び替える活動を通して、接続語の役割に着目して、文章の構造をとらえることができる。
- 3 本時の工夫点 3～4人のグループで文章構成をつかむ活動を進める。順序をばらばらにした段落を並び替える活動を通し、学び合う中で、説明文における接続語・指示語の役割や文章構成をつかむ力を定着させたい。
- 4 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の学習について把握する。 2 個人で段落のつながりを考える。 3 3～4人のグループで段落のつながりを考える。 ・それぞれが考えたことをもとに、理由をつけて意見を出し合う。 4 段落を拡大印刷したものを模造紙に貼る。 ・グループで納得できた順序に並び替え、模造紙に貼る。 5 意見を交流する。 ・注目したことについて、発表する。 6 構造の確認をする。 ・「本文」「まとめ」の区別をつける。 7 学習にまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習事項「導入・本文・まとめ」について確認する。 (本時の目標) 文章の構造(段落の関係)をつかむには、何に注目するとよいか。 ・「ばらばらになった段落を並び替えよう。」各自で判断させる。 ・授業者の指名による小グループで話し合い、段落を並び替えさせる。 ・既習事項を活かし、なぜその順序になるのか根拠を明確にして決める。 ・グループで考えたことが分かるようにする。 ・段落のつながりを示す言葉や内容について、線や囲みなどを色をつけて、根拠を明確にさせる。 ・何に注目したか発表させる。 「接続語」「指示語」「順序を示す語句」「文末」「文章の内容」 ・生徒の発言をつなぎ、注目すべきことについて整理し、板書する。 ・作者の意見が読み取れる文末に注目させ、事実と意見の違いをとらえさせる。 段落の関係をつかむには、段落はじめの言葉(接続語や指示語)に注目することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落初めの言葉に着目して段落構成をつかんでいる。 (観察, ノート, ワークシート)